

養成校と保育・福祉施設および関係機関との連携

Hijifigaoka

学校法人聖ヶ丘学園

聖ヶ丘保育専門学校



この事例のポイント

- ・ 保育実習へ行く前に、保育の仕事を継続して体験する「教育保育実地研究」を1年次に実施することで、保育の仕事の魅力を実習以外の場で体感できます。体験の前後には園と連携して事前学習や振り返りを実施します。
- ・ 教育保育実地研究のカリキュラムは、専門学校の教員と現場の保育者が連携して内容を検討し、丁寧な準備をしたうえで実施します。

この取組を行った背景や目的

聖ヶ丘保育専門学校は創立90年以上の歴史ある学校。5つの附属園をはじめとし、複数の提携園と連携を取りながら保育者養成を行っており、卒業生も多く保育現場で活躍しています。これらの背景を踏まえ、実習前の事前準備として、附属園等で通常保育を体験する「教育保育実地研究」を実施しています。「ふれあいながら学び、学びながらふれあう」ことで、子どもを知り、保育者の仕事を知り、自身が目指す保育者像を確立します。

実施した内容① 「体験前事前学習」の実施

- ・ 教育保育実地研究は単位化された演習科目で、毎年1年次の前期（4月～7月）に実施をしています。
- ・ 事前学習は体験前の基礎的な学び（身だしなみや挨拶、健康管理、体験の目的の理解、記録の書き方等）となっており、全11回を校内で実施しています。保育現場の勤務経験のある教員が、実際にあったトラブルやその対応等について取り上げ、保育現場をイメージできるように授業内容も心掛けています。
- ・ 学生各々が興味のあること（絵本、おもちゃ、手遊び等）を調べる「教材研究ノート」を作成します。毎回の授業で提出、添削、返却まで行います。



実施した内容② 「附属園、提携園での体験と振り返り」の実施

- ・体験は全部で4回実施します。体験終了後は毎回校内で振り返りを行い、仲間との対話や教員の講評による気づきを次の体験に活かせるよう、学びの定着を図りました。

★1回目：附属園へ見学に行きます。環境構成や子どもの遊びを観察することで保育への興味が高まり、保育補助のアルバイトに結び付いたケースもありました。

★2～4回目：配属先附属園または提携園で体験。最後の体験前には「保育計画の立案」をねらいとし、教材研究ノートから活動を1つ選び、子どもの前に立って実践をするための指導計画を立てました。学生からは、「緊張したけど楽しむことができた」「準備することの大切さを学んだ」「もっとたくさん調べようと思った」など振り返りの効果を感じるような気づきも多くみられました。

実施した内容③ 「附属園・協力園との連携」について

教育保育実地研究を実施するにあたり、年度の初めに専門学校主催による説明会をZOOMで実施しました。参加者は、専門学校側は校長、実習指導教員の8名、保育現場側は附属園・提携園の保育者12名でした。

実習指導教員に加え、それ以外の専任教員も巡回を行うことで、教員全体で学生の率直な声を把握し、それを共有できる貴重な機会となっています。学生の身だしなみや態度、振る舞いについても知ることができるので、次の体験に活かすことができる点が見つかったのも、効果的だと感じています。

全4回の体験終了後には、附属園、提携園との振り返りをZOOMで実施し、次年度に向けた課題点について伺いました。さらにその後、実習指導教員で最終的な振り返りを行い、これから始まる実習に向けた指導の参考にしたり、翌年の体験に向けた改善策を検討しています。



実践するためのヒント

- ・保育現場と事前打ち合わせを行い、学生の様子や授業計画を共有することで授業のねらいについて理解を深めることができるため、体験における指導を効果的に進めることができます。
- ・教材研究ノートの作成を行う際は、学生が自ら記録したい活動を選ぶことで体験への意欲が持てるようになります。また、調べるだけでなく、保育計画を立案、実行することにより、そこでの気づきを教育実習や保育実習に活かすことができます。